

商 社

1. 評価対象企業（7 社）

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、一部の評価項目の内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 84.6 点（昨年度 83.0 点）、総合評価点の標準偏差は 2.5 点（昨年度 6.4 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 87%（昨年度 84%）、**説明会等**が 85%（昨年度 83%）、**フェア・ディスクロージャー**が 93%（昨年度 87%）、**ESG 関連**が 82%（昨年度 81%）、**自主的情報開示**が 85%（昨年度 80%）となり、5 分野全てにおいて、80%以上の平均得点率で、かつ、昨年度の平均得点率を上回った。
- ③ 評価項目（全 10 項目）について見ると、各項目の平均得点率は総じて高水準であるが、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の**フェア・ディスクロージャー**の項目であった。

・「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか」（平均得点率 93%〔昨年度 87%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：80%台 1 社・90%台 6 社）

- ④ **ESG 関連**の 4 項目のうち、次の項目の平均得点率は 70%台となり、全 10 項目の中で最も低くなった。

・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 78%〔昨年度 76%〕)
(得点率：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 伊藤忠商事（ディスクロージャー優良企業〔3 回目〕、

総合評価点 88.6 点〔昨年度比－0.7 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉91%）、説明会等（88%）、ESG 関連（88%）が第 1 位、自主的情報開示が第 3 位（87%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（92%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 改善に取り組む姿勢や、ROE15%を意識した株主還元姿勢への変化、会長をはじめとする経営トップの積極的な IR 活動と投資家との対話姿勢を評価する声が寄せられた。また、投資家の意見に真摯に耳を傾ける姿勢や、経営トップ自らが高頻度かつ深度のある対話を行っている点を評価する声があった。なお、中期的な業績の方向性や目指す姿に関する説明の解像度向上や、中長期的な成長戦略をより明確に示すことを望む声もあった。また、「IR 部門の機能」も最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門によるタイムリーな情報提供や的確な回答、投資家との積極的なコミュニケーション姿勢を評価する声が寄せられた。また、事業・財務に関する高い専門性を有する担当者との有益なディスカッションや、継続的かつ丁寧なフォロー対応を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」が最も高い評価となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、利益計画の増減要因分析やトップダウン型の業績予想など、分かりやすく充実した情報開示を評価する声が寄せられた。また、子会社利益計画など同業他社を上回る高い開示水準を評価する声があった。なお、投資案件の期待リターンに関する説明の充実や、中期経営計画の開示を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は、得点率が 92%と昨年度（89%）を上回った。これに関連して、大型投資案件に関して、大部分の案件で説明会を開催していることを評価する声が寄せられた。なお、その際に中長期的な投資効果についてより分かりやすい説明を望む声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「重視する経営指標、ESG 課題等に関する項目」、「環境に関する項目」および「社会に関する項目」がそれぞれ最も高い評価となった。これらに関連して、ROE15%達成に対する強いコミットメントや、ROE15%に向けたマトリックスによる明瞭な説明、自社株買いの積み増しを含む株主還元策を評価する声が寄せられた。また、ROE やキャピタルアロケーションに関する目標設定を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、デサント工場見学会を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 三井物産（総合評価点 85.9 点〔昨年度比－5.3 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（98%）、自主的情報開示（91%）が第 1 位、ESG 関連が第 2 位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 3 位（87%）、説明会等が同得点第 4 位（84%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第 2 位となった。これに関連して、IR 担当者の高い専門性や説明能力に加え、タイムリーな情報提供、質問への的確な回答、良好な関係構築を評価する声が寄せられた。また、資源分野に関する知見の深さを評価する声が寄せられた。なお、業績計画の内訳に関する説明の充実を望む声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 5 位となった。これに関連して、経営トップ自らがマネジメントミーティング等を通じて IR 活動に積極的に関与し、株価や投資家を意識した対話姿勢や、市場の期待を積極的に把握しようとする姿勢を評価する声が寄せられた。なお、中期経営計画や業績計画の分

かりやすさの向上、特に ROE 目標達成に向けた道筋についてより具体的な説明を望む声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」が共に同得点第 4 位となった。これらに関連して、新規投資の収益貢献時期が開示されるなど、投資家が求める情報について十分な開示が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、LNG 事業の業績見通しや市況前提に関する説明の充実を望む声があった。また、長期投資の効果については説明されているものの、今後数年間の効果や単年度業績への寄与について、より具体的な開示を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は最も高い評価となった。これに関連して、大型投資については、ほぼ全てにおいて説明会を開催していることを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役に関する項目」が最も高い評価となったほか、「環境に関する項目」が同得点第 1 位、「社会に関する項目」が第 2 位、「重視する経営指標、ESG 課題等に関する項目」が第 6 位となった。これらに関連して、社外取締役との Q&A 形式のミーティングを開催するなど、社外取締役との対話機会の提供とその質の高さを評価する声があった。また、キャピタルアロケーションに関する説明の説得力を評価する声が寄せられた。一方で、ROE 目標達成に向けた具体的な道筋や ROE 改善の方策、適正な財務レバレッジ水準に関する説明の充実を望む声があった。また、新中期経営計画における増益計画や株主還元方針の解像度向上を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 1 位となった。有益なイベントとして、インバスターデイ、豪州見学会およびトヨタリーナ東京見学会などを挙げる声が寄せられた。

第 3 位 丸紅（総合評価点 85.0 点【昨年度比+0.8 点】、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、説明会等が第 2 位（87%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（96%）、ESG 関連が第 3 位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（86%）、自主的情報開示が同得点第 5 位（83%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 4 位となった。これに関連して、社長をはじめとする経営トップがマネジメントミーティングや説明会に積極的に参加し、自ら説明や対話を行う姿勢を評価する声が寄せられた。また、株価や投資家を意識した対話姿勢や、IR 活動の向上に向けた工夫を評価する声があった。また、「IR 部門の機能」が同得点第 5 位となった。これに関連して、各事業に対する理解や財務知識を有する IR 担当者の高い専門性に加え、タイムリーな情報提供や質問への的確な回答を評価する声が寄せられた。また、情勢変化に応じた機動的な対応を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」が共に第 2 位となった。これらに関連して、一過性要因の内訳開示やトップダウン型の業績予想など、分かりやすい情報開示を評価する声が寄せられた。なお、通期計画の段階損益の開示を望む声や、中期経営計画と実績に乖離が生じた場合の説明について工夫を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、大型投資案件に関して、大部分の案件で説明会を開催していることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「重視する経営指標、ESG 課題等の項目」は第 2 位、「社外取締役に関する項目」が第 3 位、「社会に関する項目」は同得点第 3 位、「環境に関する項目」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、ROE 向上に向けた道筋の明確な説明や、中期経営計画における増益計画の高い解像度を評価する声が寄せられた。なお、株主還元後のフリー・キャッシュ・フローの見通しや、ROE 改善に向けた資本政策について、より踏み込んだ説明を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は同得点第 5 位となった。有益なイベントとして、IR Day、アトリオン製菓見学会を挙げる声が多く寄せられた。

以 上

2026年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示	前回 順位			
			評価項目2 (配点 25点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 40点)	評価項目1 (配点 10点)				
1	8001 伊藤忠商事	88.6	22.7	1	4.6	4	35.0	1	8.7	3	2
2	8031 三井物産	85.9	21.8	3	4.9	1	33.3	2	9.1	1	1
3	8002 丸紅	85.0	21.5	5	4.8	2	33.0	3	8.3	5	4
4	8053 住友商事	84.9	22.1	2	4.8	2	32.2	5	8.6	4	5
5	8058 三菱商事	83.6	21.0	7	4.4	7	32.6	4	8.8	2	7
6	8015 豊田通商	82.3	21.8	3	4.6	4	31.0	7	8.3	5	6
7	2768 双日	81.0	21.4	6	4.5	6	31.3	6	7.2	7	3
	評価対象企業評価平均点	84.60	21.78		4.67		32.69		8.45		

2026年度の具体的評価項目および配点（商社）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。例えば、IR対応組織を強化したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報（通期計画の段階損益、一過性の要因、投融資の金額およびリターン、価格・数量の前提および感応度、会社にとって不都合な事象等）が十分に開示されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①重視する経営指標、ESG課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策、適正な財務レバレッジに対する考え方が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
②社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	10
③環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
④社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕 【充実していた会合等名をコメント欄に記入して下さい】	10

商社専門部会委員

部 会 長	成田 康浩	野村證券
部会長代理	森本 晃	SMBC 日興証券
	永野 雅幸	大和証券
	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
	水野 加奈子	みずほ証券

評価実施アナリスト（17名）

五百旗頭 治郎	JP モルガン証券	永野 雅幸	大和証券
大島 彰雄	野村アセットマネジメント	成田 康浩	野村證券
栗原 英明	東海東京インテリジェンス・ラボ	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
五老 晴信	UBS 証券	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
齊藤 博之	水戸証券	堀内 敏成	QUICK
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	水野 加奈子	みずほ証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	森本 晃	SMBC 日興証券
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	山口 啓朗	大和アセットマネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。